



◆犯罪捜査

取り調べ全過程の録画を

面のみを録音・録画するなど、一部の可視化を導入した。警察も同じ内容で試行を始めた。しかし、違法な取り調べは一番最初に自白するまでの間に行われるものであり、肝心の部分が不明では意味がない。

権力で抑えつけ、大声で怒鳴つても、人は簡単には自白しないし、そうして得た自白は本当の取り調べが問題視される事例が多い。私は、弁護士になる前に10年間、検事として刑事案件の現場に携わった経験から、捜査の近代化のために、密室での取り調べの全過程を録音・録画する「可視化」が不可欠と考える。捜査官の暴行や脅迫まがいの違法聴取を防ぐためだ。すでに検察庁は、大部分の取り調べが済んだ後で確認的な場

明日も来てください」とこの言葉は、今も忘れられない。生身の人間と人間とのぶつかり合いこそが取り調べなのである。2人だけの世界で本音を引き出す「割り屋」「取り調べの職人」のような刑事・検事が活躍する捜査手法は廃れるだろう。可視化が実現すれば、警察・検察は取り調べ手法について様々な工夫をするであろう。その結果、取り調べは「合理的で科学的な尋問の場」に様変わりし、達人でなくとも訓練さえすれば自白を得やすくなる。

私は検事時代、ある談合事件で毎日、拘置所に通つて被疑者との取り調べを続けたとき、互いの生き立ちや家族、趣味、人生観などを話し合い、間違つた考えには時に真剣にしかつたりもした。そんな積み重ねの結果、被疑者が心を開いてくれた。すべてを自白した後の彼の心底ほっとした表情や、「検事さん、

可視化の効用は、冤罪を防ぐくなり、治安が悪化する主張するが、それは思わない。欧米やアジアの一部など可視化を実施しているところは多いが、その結果、治安が悪化したという事例を聞いたことはない。むしろ取り調べが違法かどうかをめぐる争いがなくなつた結果、取扱いが済んだ後で確認的な場

投稿は「15300・8211 朝日新聞社「私の視点」係か、dai-siten@asahi.co mへ。本社電子メールアドレスを記載します。